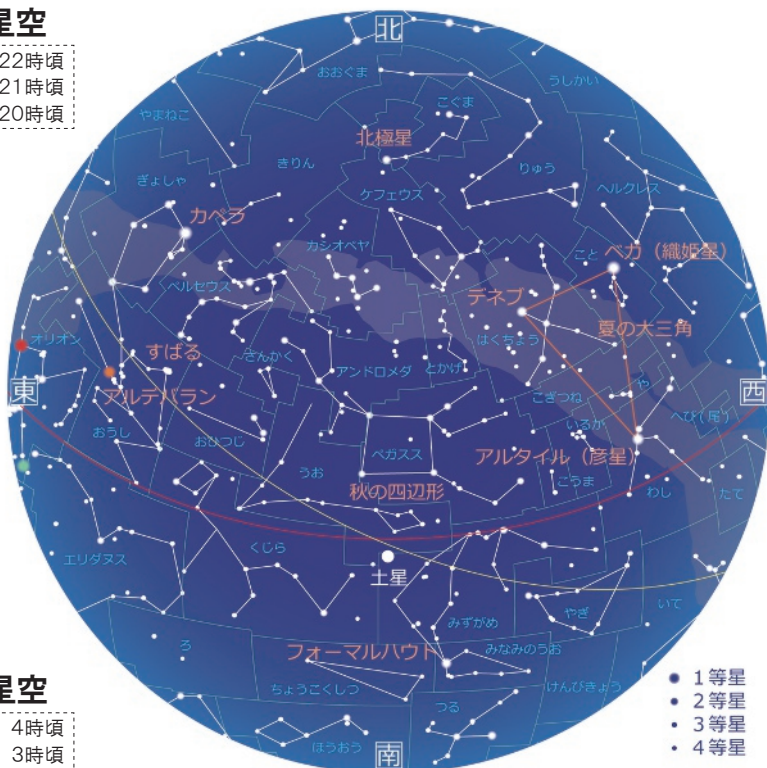


星空ガイド 10月16日～11月15日

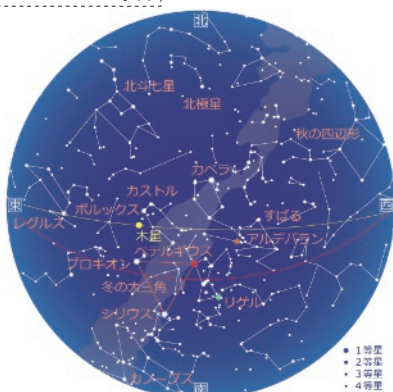
よいの星空

10月16日22時頃
11月 1日21時頃
15日20時頃



あけの星空

10月16日 4時頃
11月 1日 3時頃
15日 2時頃



〔太陽と月の出入り(大阪)〕

月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
10	16	木	6:04	17:22	0:44	14:47	24.3
	21	火	6:08	17:16	5:42	16:51	29.3
	26	日	6:12	17:10	10:34	19:51	4.6
11	1	土	6:18	17:04	14:27	1:01	10.6
	6	木	6:22	16:59	17:14	6:58	15.6
	11	火	6:27	16:56	22:35	12:14	20.6
	15	土	6:31	16:53	1:42	14:08	24.6

※惑星は2025年11月1日の位置です。

太陽系外惑星ペガサス座51番星b

秋の夜空に見ごろを迎えるペガサス座。その前胸のあたりにある5等星は、星空のきれいな場所でなら肉眼でも見ることができます。今から30年前、この恒星の周りに世界で初めて太陽以外の恒星を公転する惑星＝太陽系外惑星が発見されました。ペガサス座51番星bと名付けられたこの星の発見は、宇宙は我々が思っているよりも遥かに多様性に満ちていることを教えてくれるきっかけとなりました。



この宇宙に地球のような惑星はあるのか？天文学者は太陽系の外を探しましたが、太陽系外惑星は一向に見つかりませんでした。それは、地球のような性質をもつ惑星を発見することは、現代の技術をもってしても難しかったからでした。しかし、ひとたび太陽系の常識から離れて考えたとき、太陽系外惑星の発見は転換点を迎えることになります。

ペガサス座51番星bは、中心の恒星のすぐ近くを回る、木星の半分ほどの質量をもつ惑星です。太陽系の常識では考えられないこうした惑星の存在を、当時の天文学者は想定していませんでした。しかし、ペガサス座51番星bの発見以降、先入観なくデータを分析することで、様々な特徴をもつ系外惑星が次々と発見されていくことになります。また技術が進むことで、太陽系外惑星発見のための様々な方法が編み出され、2025年8月14日時点で5983個が見つかっています。そうした惑星の中には、中心の恒星から程よい距離にある地球型惑星がいくつか発見できるようになってきました。宇宙において地球のような惑星は稀なのか。それともまだ人類の技術が発見できるレベルに達していないだけなのか、今後の研究に目が離せません。



三田村 耕平(科学館学芸スタッフ)

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
10	17	金	木星が西矩
	20	月	土用の入(太陽黄経207°) 明方に月と金星がならぶ
	21	火	●新月(21時)
	23	木	霜降(太陽黄経210°)
	24	金	月が今月最遠(9時・406311km) 夕方に月と水星と火星がならぶ
	30	木	●上弦(1時) 水星が東方最大離角

月	日	曜	主な天文現象など
11	2	日	後の月 月と土星がならぶ
	5	水	○満月(22時)
	6	木	月が今年最近(7時・356723km) すばる食(23時すぎ～翌1時)
	7	金	立冬(太陽黄経225°)
	10	月	月と木星がならぶ
	12	水	●下弦(14時)